



あそびくにて参加者で様々な表情の葉っぱを作成したくさん貼りました



2018/4~2019/3 啓発事業報告書

あなたは指の1ミリの動きで心が動かされたことがあるでしょうか。

重い病気や障がいがある子どもとあらゆる発信が難しい、
けれど指のかすかな動きや、まばたき、視線の微妙な揺らぎだけで通じ合う子どもたちがいます。

そんな子どもたちと気持ちを交換できたとき、わたしたちは大きな感情の揺らぎや問い、そして嬉しさに出逢うことがあります。

そんな最小で最大のコミュニケーションに一人でも多くの人が出逢うために、「ニコゼミ」第2期目を開講しました。

受講生にとって、どのような学びがあったのか、1年間の学びの一端に触れていただければ幸いです。

もくじ

- P1 はじめに・もくじ
- P2 ニコゼミについて
- P3 セッション0
- P4 セッション1
- P5 セッション2
- P6 セッション3
- P7 セッション4
- P8 各チーム紹介
- P9 セッション3-4ひまわりチーム
- P10 セッション3-4ラブリンチーム
- P11 セッション3-4親子チーム
- P12 セッション3-4カラフルポップチーム
- P13 受講生アンケート
- P14 おわりに

ニコゼミについて

重い病気や障がいのある子どもと関わる機会の少ない人を対象に「ニコゼミ2018 最小で最大のコミュニケーションに出逢う!!!」という講座を1年間にわたって開催してきました。

障がいのある子どもと初めて出逢う“セッション0”、
様々な専門的知識を学ぶ演習“セッション1”、
学んだことから考えを深める“セッション2”、
子どもたちと再会し考えたことを実践する“セッション3”、
そして学んだことを人に伝える1年間の集大成のイベント“セッション4”
という5つのまなびの時間で成り立つコミュニケーション講座です。

ニコゼミは2016年に初めて開講し、今回が第2期目です。今期のテーマはアウトドア。期毎に特色ある講座内容となっています。



■実施期間

- 2018年5月 セッション0
- 2018年6月 セッション1 全3回
- 2018年6月～9月 セッション2 全4回
- 2018年10月 セッション3
- 2019年3月 セッション4

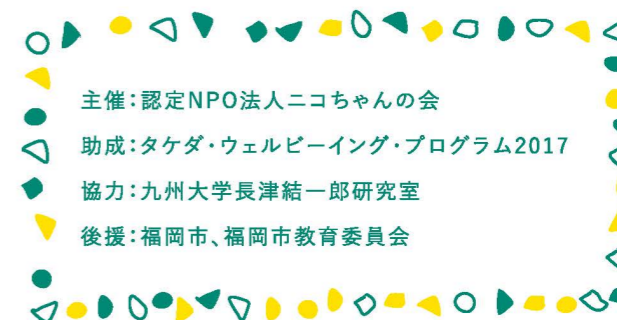
■参加者数

25名
(うち6名途中辞退、14名途中参加、2名第一期受講生)

■受講料 無料

■受講対象者

- ・重い病気や障がいのある子どもに関心のある人
- ・非言語のコミュニケーションに関心のある人
- ・医療、福祉の道を考えている人
- ・表現に関心のある人
- ・人間が好きな人



セッション 0

春のデイキャンプに潜入！

ニコちゃんの会の企画で関わっている子どものお母さんたち企画のデイキャンプに、ニコゼミ受講生も参加させてもらいました。積極的に関われた人も、近くに座ったもののどうしていいかわからなかった人もいたようでした。自然の中で障がいのある子どもたちがどんなふうに過ごすのか、家族とはどんなふうにコミュニケーションをとっているのか、知らないことにたくさん触れられた、はじめのはじめでした！



日時：5月20日(日)、11:00～14:00

場所：市内キャンプ場

参加者：48名

(病児・障がい児：5名、兄弟児：5名、家族：10名、受講生：10名、ボランティア：6名、法人スタッフ12名)

セッション 1

まなびの時間！

[セッション0]での出逢いを踏まえて、[コミュニケーション]・[医療的ケア]・[からだ]の3つの講座行いました。

これを通して、出逢った子どもたちのことを少し踏み込んで理解する時間となりました。

まなび1

障がいのある子どもとの関わり方の講座

講師：下川和洋(NPO法人地域ケアさぼーと研究所理事)

まなび2

医療的ケアの講座

講師：下川和洋(NPO法人地域ケアさぼーと研究所理事)

まなび3

身体について知る講座

講師：光安由佳

(作業療法士、重症児と家族のコミュニケーションを支える会代表)

セッション1の補講

まなびの時間の欠席者が多かったことと、次回から参加の受講生が多数いるため、急遽補講を設定。まなびの時間の内容の重要な部分をピックアップし、またニコゼミについての説明も行いました。

講師：森山淳子(NPO法人ニコちゃんの会 代表理事)

日時：6月13日(水)9:00～10:00

場所：福岡大学看護学科教室

参加者：16名



日時：6月2日(土)14:00～17:00、6月3日(日)10:00～15:00

場所：大橋サテライト(福岡県福岡市南区大橋1-3-2)

参加者12名(うち3名見学者)

セッション 2

ふりかえりの時間

わくわく！秋のイベントをみんなで企画！

【セッション0・1】を踏まえて、秋のイベントに向けたあそびのアイデアをみんなで出し合い、4つのチームに分かれ企画をすすめていきました。月1回の全体ミーティングとそれ以外に各チームでの話し合いや製作が行われ、子どもたちとどんな遊びをどんなふうに工夫したらいいかを、たくさん考える時間となりました。



2018年6月～2018年9月 全4回

【全体mtg第1回】

- ・日時：6月20日(水)19:00～20:30
- ・場所：ニコちゃんの会事務所(福岡県福岡市城南区樋井川6-37-8)
- ・参加者：21名

【全体mtg第2回】

- ・日時：7月18日(水)19:00～20:30
- ・場所：コミュニティスポットわくわく(福岡県福岡市城南区長尾1-19-2)
- ※受講生の運営するスペースをレンタルし会場とした。

・参加者：22名

【全体mtg第3回】

- ・日時：9月3日(月)19:00～20:30
- ・場所：アミカス(福岡県福岡市南区高宮3-3-1)
- ・参加者：21名

【全体mtg第4回】

- ・日時：9月19日(水)19:00～20:30
- ・場所：大橋サテライト(福岡県福岡市南区大橋1-3-2)
- ・参加者：18名

セッション 3

ニコフェス

「お日様の下でたくさん子どもたちと家族が集える場があったらいいな」ということで、博多の森に協力してもらい、みんなであそぶおまつりを開催しました。受講生が頭をひねって工夫を凝らしたユニークなあそびに、ニコスタッフやこぴあ(ニコちゃんの会ボランティア)さんのおいしい出店もあり、笑顔あふれる1日となりました。

あそびの出店の担当だけでなく、一緒に子どもとニコフェスをまわってあそんだりもしました！



途中参加の受講生にとっては、この時が初めての出逢いの場となりました！



家族と過ごす子どもたちをみて、重い病気や障がいのある子どもの生活なども想像できました！



わたがしやチョコフォンデュで、口から食べるできない子どもも楽しめました！



日時：10月8日(月・祝)11:00～15:00

場所：東平尾公園レベルファイブスタジアム裏

福岡市博多区東平尾公園2-1-1博多の森球戯場

参加者：約143名

病児・障がい児：18名、弟児：15名、家族：35名、受講生：21名

ボランティア：27名、法人スタッフ17名・他知人約10人

セッション 4

あそばく

1年間の学びを人に伝えることで自分のものとする、集大成の場「あそばくーニコゼミあそび博覧会ー」を開催しました。考えたあそびをセッション3で披露したことで、たくさんの気づきがありました。それらを元に各グループで、関わり方やあそびについて考え改良を重ねました。

最後は
前回のニコゼミで
まれたあそび「たまこ
ろがし」をみんなでして
盛り上がりました!

来場者
が葉っぱを貼って
いき、みんなでひとつ
の大きな木をつくりま
した!

受講生にイ
ンタビューするのは、明瞭な
発語の難しいインタビュアーあゆ
きち!文字盤でのやりとりもまた、
受講生のまなびとなりました。

飛び入り
でお笑い芸人にこここぶん
ぶん氏の舞台とMr.Handyの
マジックショーもあり、イベン
ト目白押しでした!

スタン
ブカードがうまっ
たら嬉しい景品がもら
えるようにしました!



日時:2019年3月24日(日)10:00~16:00
 場所:アクロス福岡2F交流ギャラリー(福岡市中央区天神1-1-1)
 入場料:無料
 一般来場者:157名



チーム紹介

ひまわりチーム

- 栄野 将志(まーくん)
- 笠松 範子(かさまっちゃん)
- 永田 萌奈(ながも)
- 長谷川 真弓(はせさん)



ラブリンチーム

- 岡村 小春(こはるん)
- 高園 愛美(あいちゃん)
- 平田さくら(さくら)
- 福嶋 美結(みゆ)
- 宮川 ななえ(ななちゃん)
- 山元 美和(みわ)



親子チーム

- 大賀 綾弓(あゆみ)
- 徳永 優子(ゆうこ)
- 堀尾 有可(ゆかちん)
- 槇原 瑠沙(キャサ)
- 余瀬 晶子(しょうこ)



カラフルポップ

- 實好 香里(かおり)
- 澤岡 麗(ちゃんれい)
- 田中 花歩(かほ)
- 田中 蓮実(はすみん)
- 園田 キララ(キララ)



チーム名	ひまわりチーム
あそびの名前	ニコばえ〜



Idea ①
インスタ映えの
フォトプロップス

バギーに乗っている子について、
イメージできていなかったため、
顔が正面から写せない子がいた。

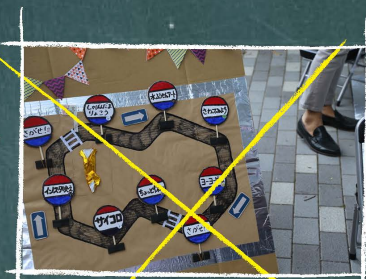
フレームの位置を映る人によって変えられるしくみ

遠近法を利用した撮影。

小さな枠をつくり、どこからでも撮れるように

- ・みんなが同じに楽しめるように、
映る人に環境が合わせられるフォトプロップス
- ・4つの個性豊かな写真フレームを準備

Idea ②



ニコフェス全体のあそびを
巻き込んだスゴロク

Idea ③

ゼリービーズの足浴コーナーで、
感触を楽しみつつリラックスしてもらう。

チーム名	ラブリンチーム
あそびの名前	みんなで花火をあげよう

Idea ①

水風船を落として割って
みんなでひとつの色水アートを
つくるあそび。水風船は投げることも
できるし、水風船につないだヒモを
持ってもらい狙った位置で手を離すと
割れるという仕組みも考えた。



映像や写真では子どもたちを見ていて
イメージしていたけど、実際にあったらできないことがあった。

- 1 バギーからの視線だと地面に敷いたキャンパスが見えない子がいた
- 2 水風船を投げるのが難しい子用にヒモを引っ張るしくみを考えていたが
ヒモを引っ張ったり離したりするのがマッチしない子がいた
- 3 水風船を投げられないから他の方法を、と考えていたが
「やっぱり投げたい」という気持ちを考えられていなかった

水風船の割れる位置を床ではなく、壁にする？
軽い力で押すことで水風船がわるようなしかけ？

息詰まる...

それよりも

キャンパスを斜めにしたり、鏡をもったりして見えやすくした。
手を添えたり、いっしょに投げたりしてしかけに頼らず全力でサポートする。

子どもももっとしっかりかかわって、
みんなで大きな花火の色水アートを作る！

チーム名	親子チーム
あそびの名前	しゃぼん玉トンネル



Idea ①

大きなシャボン玉の中に入ったような感覚で、景色を楽しんでもらうもの。バギーの子は上を向いていることが多いから、その視線を装飾した。

積極的に話しかけていくことが大事!

間にもものれんのような装飾を垂らし、途中に光や揺らすなどのアトラクションを取り入れた。

- 1 入口に装飾を加えることで触り心地を楽しんだり、より視界が変わるようにバージョンアップ
- 2 一緒にトンネルをくぐって表情をみたり、入り口や出口でも積極的に話しかける
- 3 通っている間、アトラクションを外から起こし、より五感で感じてもらえるものにする

Idea ②

~~力の差は関係なくちぎれるように工夫した紙テープの綱引き。切れた紙テープはかざりに貼って、足跡を残してもらう。~~

トンネルに絞る!

自分から積極的に話しかけることができず、親を介してしか関わっていなかったからトンネルから出てきた子どもの表情を親は「喜んで」と言ったけど、いまいちわからず実感が持てなかった。

健常の子は走って通って、景色を楽しむ様子がなかった。親からも「なんだったんだろう?」と楽しめなかったような意見があった。

チーム名	カラフルポップ
あそびの名前	触って♪鳴らして♪ピカッ★

Idea ①



鈴が中にはいったボールをヨーヨーに見立てて、ボールについたヒモをひっぱって釣ってもらい、音を楽しむもの

改善すべき点

- ・鈴の量や音の鳴り方がうまくいってなかった。
- ・子どもの動かせる範囲をわかってなかった。
- ・直前にやっつけ仕事で作ってしまい、子どもと自信をもって接することができなかった。

あそびはいったん白紙に戻してもっと子どもとかかわってみることが必要!!

後悔した...

ニコちゃんの別の企画に参加したり、通所に見学に行ったりして、直接子どもたちに会いにいった。そこで色々知り、それからは次にどんなあそびにしたら楽しんでもらえるかを考えるのがわくわくした。

- ・箱の中身あて
- ・動かせる動かせないに関係なく、触れたら音が鳴って光る五感で楽しむ迷路

Idea ②



箱の中に手を入れて、その中にある色々な感触のものを触って楽しむもの
中身を絞ってそのまま採用!

受講生アンケート

Q1. ニコゼミに参加して、嬉しかったことやよかったことは？

「コミュニケーションがうまくとれないと今まで思ってた人と何も使わずに会話できたこと」

「それぞれにコミュニケーションの仕方に違いがあることを実感できた」

「障がいのある人や普段なかなか知り合う機会の少ない人と、年齢や立場関係なく一緒に遊びを創ったり、楽しい時間を共有できたこと」

Q2. ニコゼミに参加して、具体的にどのようなまなびがあった？

「様々な価値観の人とかかわる中で、自分の価値観や枠組みを問い直すことができました。そして自分の当たり前は当たり前ではないということが分かった。子ども達と、そのご家族とかかわる中で、自分の緊張や、戸惑い、嬉しさ、など素直な気持ちとして自分がなにを感じるか知ることができたことが大きなまなびでした。その素直な感情を大切にしながらこれから、いろんな人と人がまじわること、心を通わすことを考えていきたい。」

「障がいを持つ子供とコミュニケーションを取るときの基本は健常者と変わらないこと」

「障がいがある人が、どんな視点で物事を見たり考えたりするか、前より少し想像する事ができるようになった。人に食べさせる、食べさせてもらう、人の身体を動かす、動かしてもらうなどを体験したワークなどでは、自分が良いと思う行動も、実は相手には心地よいとは程遠かったり乱暴に感じたりする事があったり、そういう簡単な疑似体験をしてみる事でも、以前より他者への想像を巡らせることができるようになった」

おわりに

今期のニコゼミのテーマはアウトドアでした。

自然の中で出逢うところから始まり、重い病気や障がいのある子どもとの関わり方を、学んでやってみる1年間でした。

ニコゼミが進む中で、途中参加の受講生を受け入れたいと思い補講をしたり、秋のデイキャンプをより意義のあるものにするためおまつりにしたり、今期のテーマのアウトドアにちなんでか、講座自体が自然のように有機的にカタチを変えていくものでした。それは受講生にとって、大きな流れの中で主体性を問われる講座でもありました。

そんな中でも、受講生は子どもたちとの関わりの中でしっかりとまなびをつかんでいきました。まるで大きな森の中のひとつの野花が人知れず芽吹き花開くように。

最小で最大のコミュニケーションとの出逢いは、ひとりひとりの中でひそやかに、でも大きな感動とともに起こっているものだと思います。そのきっかけづくり・下支えこそが、ニコゼミの役割であり、それ自体は自然のように大きく自在に動いていいのだと思い知る1年間でもありました。

そのような講座にすることができたのも、本当にたくさんの方のお力添えと柔軟な対応のおかげでした。受講生にとって、そして当法人にとっても、これまでとは違う景色をみることができました。この場を借りて、関わってくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。



発行日 2019年3月31日
発行 認定NPO法人ニコちゃんの会
編集 池田 万由未
デザイン 山田 賢祐
助成 タケダ・ウェルビーイング・プログラム2017

本事業についてのお問合せ

認定NPO法人ニコちゃんの会
〒814-0153 福岡市城南区榎井川6-37-8
tel 092-863-5903
fax 092-862-0597
e-mail info@nicochan.jp